

## 高速道路の進化に、挑み続ける

### 事業を取り巻く経営環境

高速道路を取り巻く経営環境は、地球温暖化に伴う豪雨災害や台風被害の激甚化・頻発化、また先進デジタル技術の急速な進歩等による自動運転の進展等、大きく変化しています。物流・観光をはじめとした我が国の生活・経済活動や文化活動を支える重要な社会基盤である高速道路は、これらの変化に柔軟に対応し、「進化」し続けることが必要です。そのため、2021年度から2025年度を対象とする中期経営計画において、「進化2025」と題し、安全・安心を最優先に、西日本の高速道路を進化させる取り組みを推進しています。

「進化2025」の初年度となった2021年度は、2020年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた一年となりました。2020年度に比べて料金収入やSA・PA飲食物販売売上高は若干の回復となったものの、完全な回復には至っておらず、2021年度決算では、純利益は黒字となりましたが、関連事業(SA・PAの管理運営等)は厳しい経営環境が続いています。

経営環境の変化を受けつつも、着実な事業推進を行い、2021年度は、徳島南部自動車道(徳島JCT～徳島沖洲IC)、播磨自動車道(播磨新宮IC～宍粟JCT)の開通をはじめとした高速道路ネットワークの新規建設や、阪和自動車道・湯浅御坊道路(有田IC～印南IC)の4車線化等を進めることができました。また、24時間365日、高速道路の機能・サービスを間断なく提供するために、高速道路リニューアルプロジェクトや耐震補強工事等の保全事業を着実に進めております。2021年度は、西日本管内は自然災害が比較的少ない年度となったものの、「令和3年8月の大雨」では高速道路も被災しました。近年、激甚化・頻発化している豪雨災害や台風被害に対して、社会インフラとしての使命を果たすべく、ハード面・ソフト面の両方から、災害対応力の強化に努めております。

### 地域の新しい魅力づくり

観光産業等の様相が変化しているウィズコロナ・アフターコロナ時代においては、高速道路を取り巻く地域の状況も大きく変化しています。当社では、多様化する地域社会のニーズに貢献し、地域創生を目指す取り組みとして、「地域共創」活動に取り組んでいます。「地域共創」活動では、当社と地域がお互いのリソースを活かし合い、地域の新しい魅力をつくることを通して、持続可能な地域づくりにチャレンジしています。2021年度は、自治体や地元企業の皆さまと連携し、音声とウェブが融合した地域連携メディアの運営や、SA・PAを活用した誘客連携を実施しました。引き続き、「地域の新しい魅力づくり」により、地域の皆さまとともに、地域の発展を目指してまいります。

### 生産性の向上を目指して

当社グループが持続的に進化するためには、生産性の向上や業務効率化を推進するためのDX(デジタルトランスフォーメーション)が不可欠です。そこで、2021年12月に、グループ会社を含めたDX戦略推進会議を発足し、当社グループのDX戦略を「NEW ACE DXs」と名付けました。重点施策として、「マインド醸成」「基盤整備」「人材育成」というDXを下支えする3つの基盤と「業務処理の効率化」「業務・サービスの高度化」という2つの取り組みによる5本柱を定め、DXを推進しています。

また、発注者及び工事等受注者ともに担い手が不足する中で、増大する業務を限られた人的資源で遂行するためには、受発注者双方の業務効率化・高度化による更なる生産性向上の取り組みが重要です。その一環として、当社グループの事業におけるBIM/CIM(※)等を活用した生産性向上の取り組み事例をウェブサイト公開し、

BIM/CIM等を活用した  
生産性向上の取り組み



※BIM/CIM: Building/ Construction Information Modeling, Management

今後の更なる活用を推進する等、生産性向上に向けた取り組みを行っています。

引き続き、DXの推進等により、業務の大胆な刷新や、テレワークの推進による働き方改革等、新たな時代に即した組織への変革を継続して図り、進化した高速道路サービスを提供することで、豊かな未来の実現に貢献してまいります。

### 環境経営の推進

環境の保全・改善に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成を目指して、2008年から「環境方針」を制定し環境経営を推進してきました。2021年度から2025年度を対象とした「環境基本計画2025」では、「脱炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」を3つのテーマとし、事業活動の様々な側面における具体目標(アクションプラン)を立て、環境負荷の低減に取り組んでいます。特に、脱炭素社会の実現(カーボンニュートラルの実現)を目指す取り組みとしては、高速道路ネットワークの整備による円滑な交通確保を通じた二酸化炭素排出量の削減、電気自動車(EV)充電設備の増設や、道路空間を活用した省エネルギー及び緑化の推進に加え、新たに2022年度から、高速道路における二酸化炭素吸収型コンクリートの活用に向けた検討に取り組んでまいります。

### 持続可能な社会の実現に向けて

当社グループでは、これらの事業活動を、「私たちは、高速道路の安全・安心を最優先に、高速道路の進化に挑み続け、地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します」というグループ理念のもとに行っています。高速道路の進化に挑み続けることにより社会インフラの機能を更に高め、我が国の持続的な発展と豊かな未来の実現に貢献することが、NEXCO西日本グループの使命であり、社会的責任(CSR)であると考えているからです。2021年度には、当社グループの事業に関する資金調達について、

ソーシャル・ファイナンス(社会的課題の解決に資する資金調達)としての外部評価を取得しました。ソーシャルボンド、ソーシャルローンによる資金調達を通じて、投資家・金融機関の皆さまとも一体となって事業を行い、また、事業活動を通じてESG(環境・社会・ガバナンス)に関する取り組みを推進することで、国連が採択した「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献してまいります。

### おわりに

これからも、あらゆる事業活動を通じて、お客さまや、沿道地域の皆さまをはじめとした社会、投資家・国民の皆さま、お取引先、グループ社員等、様々なステークホルダーへの責任を果たすことに努めていきます。皆さまには、本レポートやNEXCO西日本グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。



西日本高速道路株式会社  
代表取締役社長

前川 秀和